

外国語学習アドバイジング入門

青木直子（大阪大学）

外国語学習アドバイジングとは、学習者が自分で外国語学習の目標を立て学習を進めていける力を身につけるのを助けるための方法です。アドバイジングでは言葉そのものを教えることはしません。そのかわり、学習者が自分の学習について考えを深められるような質問をし、その答えを傾聴し、学習者が学習計画を立てるのを手伝います。また、必要なら、学習に関する選択肢を提案します。アドバイジングが必要なのは、学習者が自分の学習について自分で決めることが学習の成否を左右すると考えられるからです。その主な理由としては、目的に個人差があるから、内発的動機の維持に自己決定が重要な要因となっているから、記憶やスキル習得のメカニズムを機能させるためには学習者が自分の認知スタイルや学習スタイルを知って学習へ積極的に関与していくことが必要だからという3点があります。

アドバイジングは、一人で学習を進めていける能力をすでにもっている学習者には必要ないでしょうし、授業にくる目的が日本語学習以外にある場合（例えば、クラスの人たちと会って交流を深めるのが最大の目的である場合）、日本語学習を主眼とするアドバイジングは機能しないだろうと思います。あくまでも、日本語の能力を伸ばしたいと思っているが、学習の仕方がわからなかったり、計画通り学習が進められないという人に対して、有効であると考えてください。ただし、一人で学習を進められる学習者でも「最近どうですか？」というように声をかけてあげれば嬉しいかもしれません。また、単位のために仕方なく授業に来ているような学生でも「単位をとるためにどのように勉強したらいいと思うか」というような質問をしてあげることで、日本語の勉強に対する考え方がかわるかもしれません。アプローチの仕方は学生によって臨機応変に変えていく必要があります。

アドバイジングは当初、セルフアクセス・センターでの学習をサポートする目的で考えられ、1対1で行われてきましたが、通常の授業を行っていても、授業外に行ったり、授業中にグループで行ったりすることもできます。さらに、学習者の書いた学習日記に返事を書く、スカイプで話をするなど、学習者と直接会う機会がなくても可能です。

アドバイジングは何語ですべきかに関していろいろな意見がありますが、私は、学習者の目標言語の能力や、媒介言語の有無、通訳に立ってくれる人がいるかどうかなどを考慮して、都合のいい言語ですればいいと思います。

アドバイジングのセッションは基本的に学習の進行状況を振り返り、問題があれば解決し、次の学習計画を立てるという構造を持っています。ただし、初回のセッションでは、学習者それぞれの長期目標や中期目標を明確化する、今何ができるかについて自己評価をするなどが必要になるので、少し余計に時間がかかります。また、目標が変わったり、学習計画に無理があったり、自分に向いていなかったりすることもあるので、定期的な見直しと軌道修正も必要になります。そのためのセッションは通常のセッションとは少し違った構造を持っているかもしれません。

アドバイジングをするためには、通常の授業をするのとは少し違った知識やスキルが必要です。大まかに言えば、それらは、学習者とのラポールを作る能力、ポジティブ思考の能力、判断を留保する能力、観察力、想像力と共感性、役に立ちたいという気持ち、適度なリーダーシップ、学習者の話を聞く能力、学習者の必要とする言葉を提供する能力（目標言語でアドバイジングをしている場合）、質問する能力、

選択肢を提供する能力、問題の原因を説明できる能力であると言えます。

学生の数が多かったり、カリキュラムが過密スケジュールであったりして、アドバイジングの時間がとれないという状況もあるだろうと思います。そのような場合でも、少しずつ学生が学習に対して意識的に考え、進め方をコントロールするように働きかけることは可能です。例えば、授業進行の要所所で学習者に次はどうしたいか聞くという方法があります。「あとどのくらい時間が必要?」、「もっと練習したい?」、「説明をしてほしい?最初に練習問題をやってみる?」などのような質問が考えられます。また、授業の最後にその日の授業について質問することもできます。「今日、覚えたこと、わかったことは何?」、「難しかったことは何?それはなぜ?」、「わからなかったことは何?それはなぜ?」、「面白かったこと、楽しかったことは何?それはなぜ?」、「気に入った学習活動はどれ?それはなぜ?」などの質問を時に応じて毎回1つしてみるというようなことはそれほど時間をかけずにできるだろうと思います。また、時々JF 日本語教育スタンダードに準拠している Can Do

(https://jfstandard.jp/pdf/20160623_JF_Cando_Category_list.pdf) やヨーロッパ言語共通参照枠に合わせて作られた「汎用目的のチェックリスト」

(http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp/pdf/resources/ELP_Generic_checklists_JP.pdf) をやってみて、学習者が自分の能力や進歩について考える機会を作るということも考えられます。さらに、練習の方法など、なぜやるかを説明したり、授業の予定などを視覚化して学習者と共有することで、学習者に学習の仕方、時間のコントロール方法などを身につけてもらうこともできます。

【アドバイジングに関する基本的な文献】

- 青木直子 (2001) 「教師の役割」 青木・尾崎・土岐 (編) 『日本語教育学を学ぶ人のために』 世界思想社、182-197
- 青木直子 (2008) 「学習者オートノミーを育てる教師の役割」 『英語教育』 2008年2月号, pp. 10-13.
- 青木直子 (2013) 『外国語学習アドバイジング』 Kindle eBooks.
- 青木直子 (印刷中) 「教えるのをやめる: 言語学習アドバイジングというもう一つの方法」 『小出記念日本語教育研究会論集』 25号
- 桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」 (2007) 『自律を目指すことばの学習 —さくら先生のチュートリアル—』 凡人社
- マリー=ジョゼ・グレンモ (2011) 「言語学習のためのアドバイジング」 青木直子・中田賀之 (編著) 『学習者オートノミー: 日本語教育と外国語教育の未来のために』 ひつじ書房、149-170
- Carson, L. & Mynard, J. (2012). Introduction in J. Mynard & L. Carson (Eds.), *Advising in language learning: Dialogue, tools and context* (pp. 3-15). Harlow: Pearson Education.
- Gremmo, M-J. (2007). From intention to contextualised action: Language advising as a negotiation process. M. Carroll, D. Castillo, L. Cooker & K. Irie (Eds.), *Proceedings of the Independent Learning Association 2007 Japan Conference: Exploring theory, enhancing practice: Autonomy across the disciplines*. http://www.independentlearning.org/uploads/100836/ILA2007_012.pdf
- Kato, S. & Mynard, J. (2016). *Reflective Dialogue: Advising in Language Learning*. London: Routledge.
- Ludwig, C., & Mynard, J. (Eds.). (2012). *Autonomy in language learning: Advising in action*. Canterbury, UK: IATEFL.
- Mozzon-McPherson, M. & Vismans, R. (Eds.). (2001) *Beyond language teaching towards language advising*. London: Centre for Information on Language Teaching and Research.
- Mynard, J. (2012b). A suggested model for advising in language learning. In J. Mynard & L. Carson (Eds.), *Advising in language learning: Dialogue, tools and context* (pp. 26-40). Harlow: Pearson Education.